第８節　管理施設および便益施設に関する計画

５－８－１　便益施設・休憩施設（トイレ・ベンチ・駐車場・バイクスタンド）

【楢下宿】

楢下宿では、大黒屋・旧武田家・滝沢屋の屋外、及び山田屋の屋内にトイレが設けられ、イベント時には仮設トイレで対応している（図302）。学校や団体が史跡を訪れた際に不足するトイレの増設については、楢下地区会から要望が出されている大型バス駐車場の整備と併せて協議する。

楢下宿の冬は寒さが厳しく雪も多いことから、大黒屋以外の常設トイレは、冬期間（12月～３月）閉鎖している。一方、地域で受け継がれてきた雛人形を山田屋や庄内屋等に展示する「かみのやま雛祭り（３月／図303）」には、毎年大勢の見学者が訪れており、冬期間も開放している大黒屋屋外トイレは、屋根に降り積もる雪への対応とともに（図312）厳寒による水道管の凍結防止に向けた対策を協議する。また、滝沢屋屋外トイレ（和式）は、利便性を高めるため洋式化を検討する（図304）。

楢下宿には、大黒屋、旧武田家及び滝沢屋に駐車場が設けられている。大黒屋北側の駐車場については、利便性をさらに高めるため、令和２年10月に楢下地区会・楢下宿保存会・羽州街道「楢下宿」研究会が連携して舗装化し（図307／図308）、植栽空間の整備が計画されている。

楢下宿への公共交通機関として路線バスが１日４本運行されている（週末・祝日、年末年始は運休）が、昨今は、自転車で史跡を訪れるサイクリストが増加傾向にあることから、楢下宿にある駐車場に住民手作りでバイクスタンドの設置が令和２年８月から進められている（図305／図306）。

また、史跡来訪者が宿場を散策する際に休憩できるように歴史的建造物やトイレには、住民手作りのベンチも設けられている（図309～図311）。

図302 イベント時の仮設トイレ（ツール・ド・ラ・フランス大会）

図303　かみのやまの雛祭り（山田屋）

図304　滝沢屋の屋外トイレ（和式）

図305　住民手作りのバイクスタンド

図306　バイクスタンドの利用状況

図307　大黒屋駐車場の雨天・降雪時の状況（整備前の令和元年）

図308 住民により整備（アスファルト舗装）された大黒屋駐車場（令和２年）

図309　住民による手作りベンチ（山田屋）

図310　住民による手作りベンチ（大黒屋）

図311　住民による手作りベンチ（旧武田家）

図312　通年開放の屋外トイレ（大黒屋）。冬季の雪下ろしが不可欠

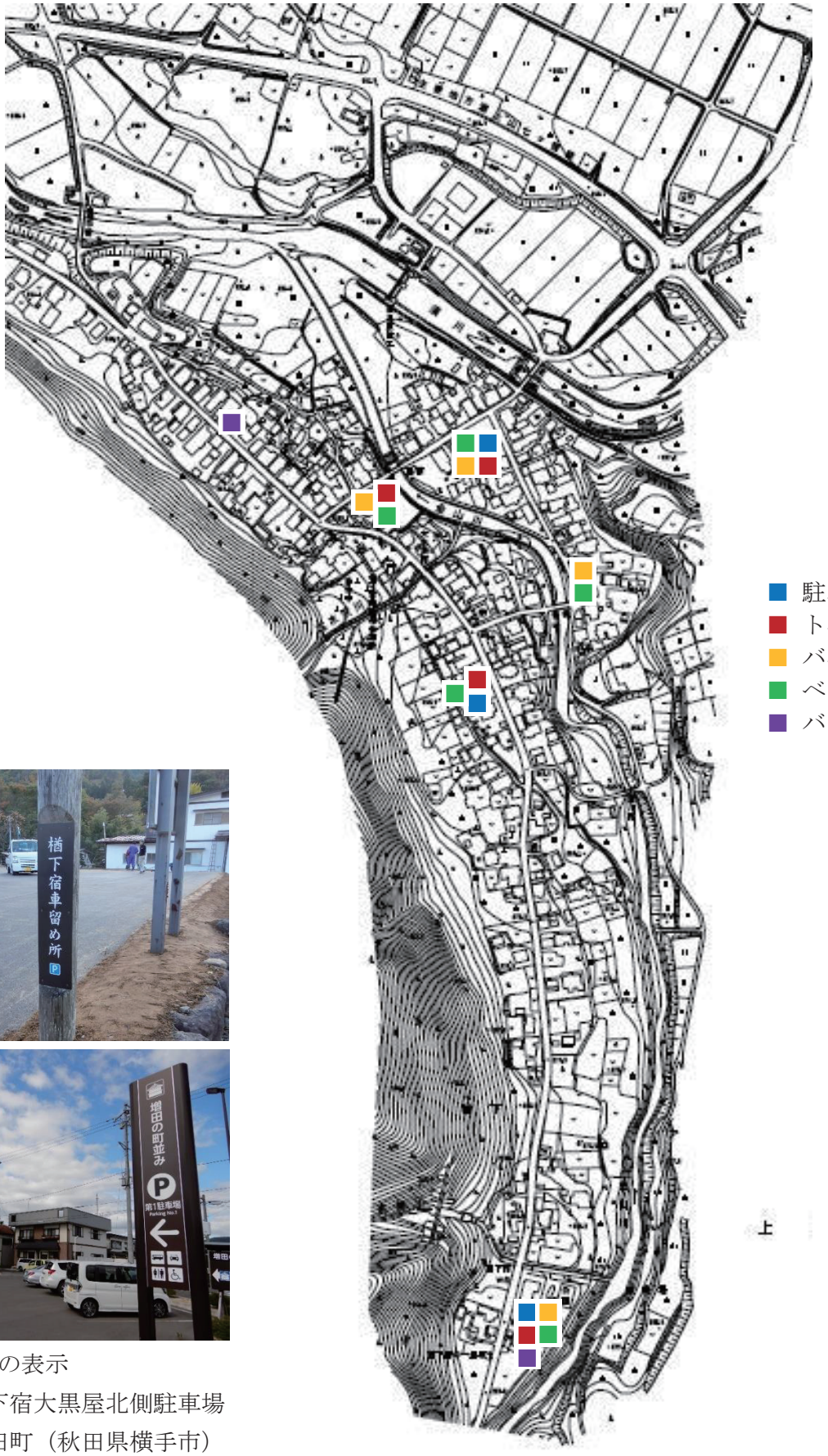


図 314　楢下宿の便益機能

図313　駐車場の表示

上：楢下宿大黒屋北側駐車場

下：増田町（秋田県横手市）

【金山越】

金山越では、金山宿の私有地を市が駐車場用地として借り上げ、この敷地内に令和元年度から仮設トイレを設置している（図315～図317）。金山越も檜下宿同様、冬は厳寒で雪が多いため、仮設トイレの設置は５月～11月の期間に限定し、降雪期間は金山宿から仮設トイレを搬出している。金山宿から金山峠に至る街道沿いには景観に配慮してベンチ等は設けず、史跡探訪者は、馬頭塔の配石や木歩道を休み石的に利用している（図318／図319）。

なお、金山越で定期的に実施している市民史跡保全活動の際に使用している自走式チッパー粉砕機や重機類の駐車・旋回スペースとして、金山宿南側の地蔵尊付近を利用しており、今後も継続する。

図 315 金山宿の駐車場と仮設トイレ

図 316　仮設トイレ利用状況。今後トイレの向きや覆いを検討する

図 317 金山宿駐車場の利用状況

図 318　馬頭塔の配石は休み石として利用

図 319　木歩道で休憩

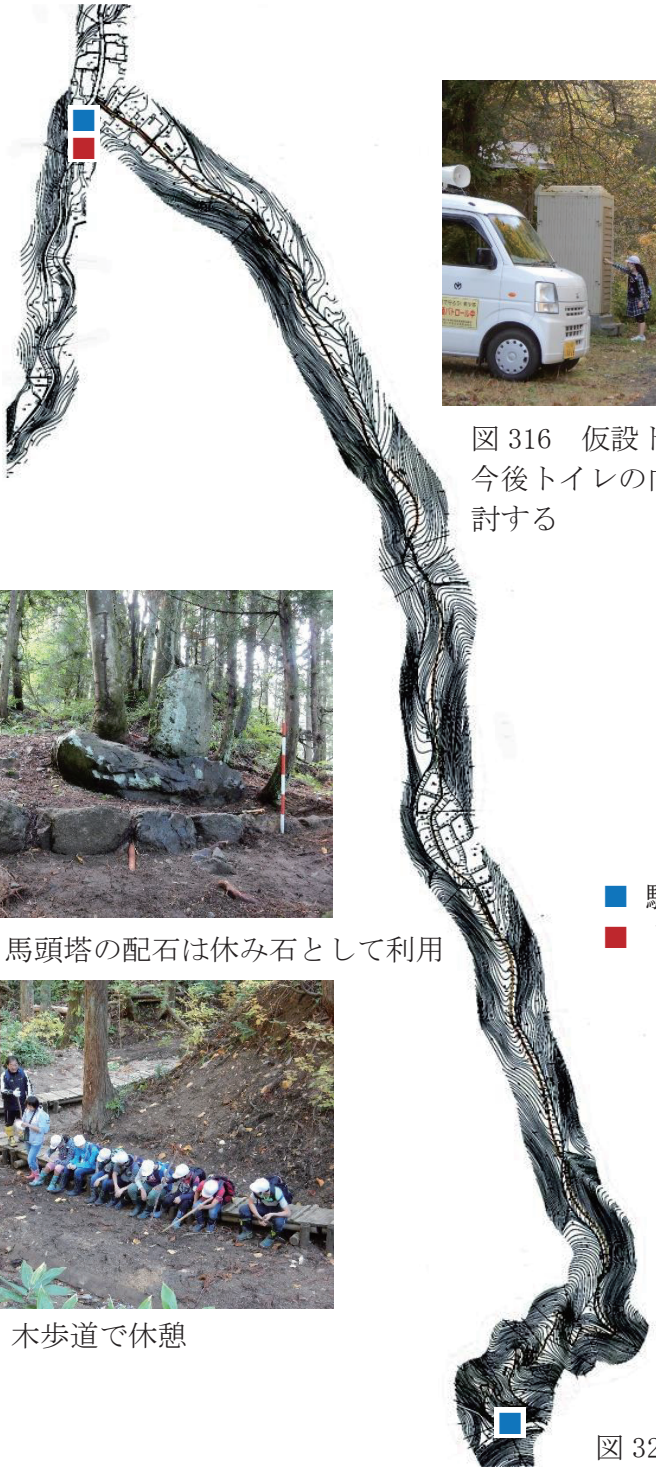


図 321　金山越の便益機能

図 320　市民史跡保全活動で使用する重機類は地蔵尊の北側スペースを利用して駐車・旋回

第９節　公開・活用及びそのための施設に関する計画

５－９－１　ガイダンス施設

楢下宿のガイダンス施設である脇本陣「旧丹野家住宅（滝沢屋）」は、平成５（1993）年に下町から現在地に移築され、その際、茅葺きから銅板葺きに改められた。管理棟が併設されている同施設には、楢下宿保存会の管理人が常駐し、宿札や古文書、民具等の展示を通して、来訪者に楢下宿の歴史や文化を紹介しているほか、来訪する小学校や大学等にふるさと学習や調査研究の機会を提供している。

平成26年７月の大雨に伴い史跡羽州街道金山越の23か所で甚大な被害が生じて災害復旧工事がなされ以降、史跡羽州街道楢下宿金山越では史跡調査委員会のもと、東北芸術工科大学や山形大学、古文書に親しむ会、地域住民と連携を図りながら、宿場や街道に関連する遺構や古文書の確認調査等が進められている。今後は、上山城や古文書に親しむ会等と協力して調査成果を分かりやすく展示紹介して、史跡の魅力のさらなる情報発信に努める。

湿度や害虫対策として現況の展示環境を確認した上で湿度計や防虫剤等で対策を講じるとともに、管理人による展示品のチェック体制を構築する。

また、自然光は展示品の変退色を招くことから照明等の環境を整え、適正な保存管理に努めるとともに、現在、資料の展示スペースが限られていることから、展示ケース等の拡充を図る。

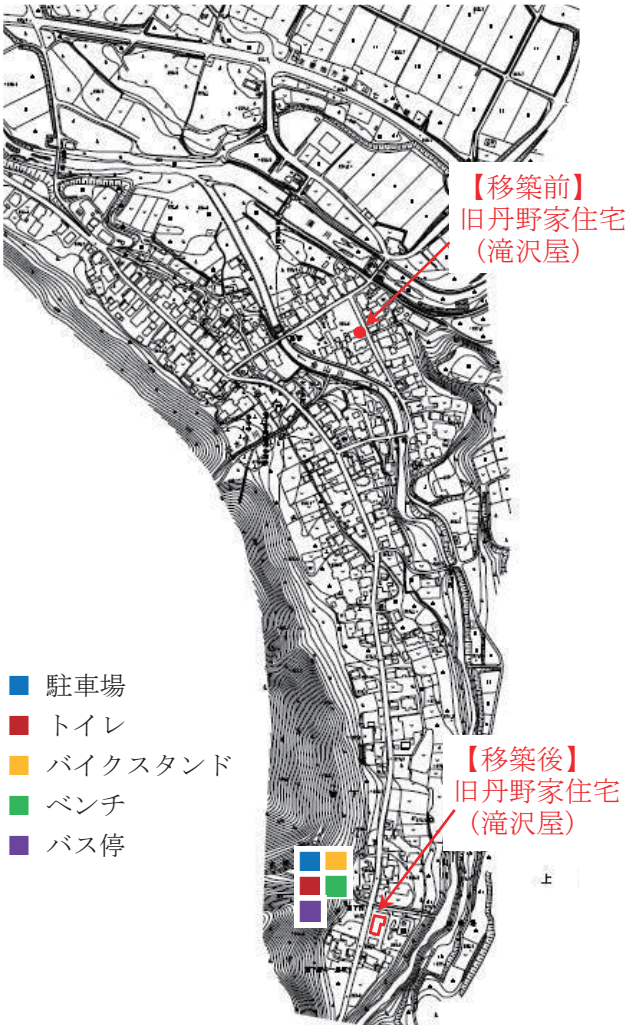


図 322　ガイダンス施設
「旧丹野家住宅（滝沢屋）」位置図

図 323　「旧丹野家住宅（滝沢屋）」
主屋に対し、上座敷の部分を奥に突出させた曲り家の構造は、楢下の上層民家の特徴とされる

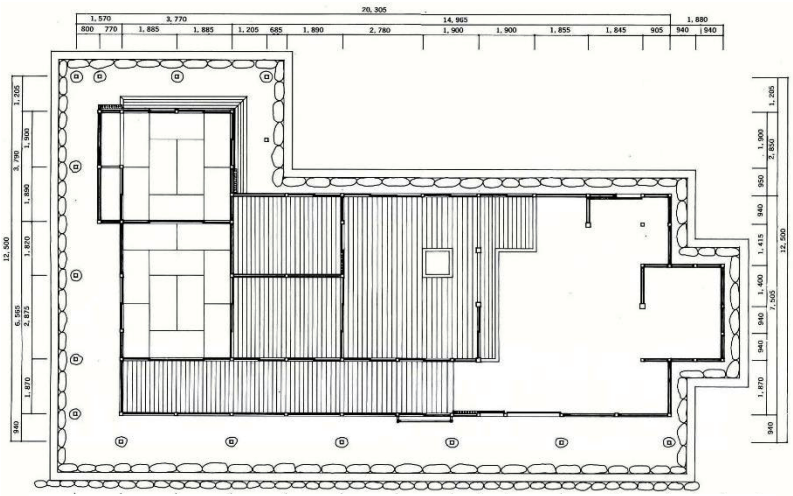


図 324　「旧丹野家住宅（滝沢屋）」平面図
【構造】木造、平屋建、曲り家、屋根寄棟、銅版葺き
【規模】主屋　桁行 18.745m（約 10 間）
梁間　7.505m（約 4 間）

令和２年度、楢下宿本陣「塩屋（齋藤家）」より関札や祈祷札、土蔵収蔵品など楢下宿に関連する貴重な史料を多数、市に寄贈いただいた（図325）。楢下宿の歴史や文化を理解するうえで非常に有益な史料であることから、楢下宿のガイダンス施設を中心に積極的に公開活用を図る。

また、「楢下宿文書集（上山市史編集資料33）」に収められている脇本陣「滝沢屋」に関連する「旧旅籠屋　丹野信一文書」や「津軽出羽守様御昼宿割帳」等の関連史料の展示公開を通して来訪者に史跡の情報を適切に発信する。

図 325　楢下宿「本陣（塩屋）」から寄贈いただいた土蔵収蔵品

図 326　楢下宿「本陣（塩屋）」から寄贈いただいた関札と祈祷札。祈祷札には楢下宿で山津波や洪水が発生した「延享」や「寶暦」の元号を確認できる

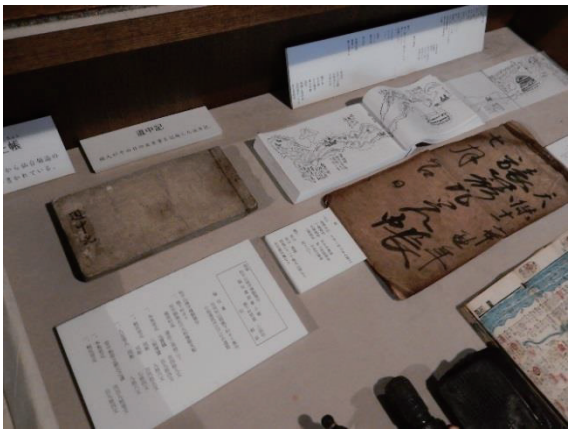


図 327　ガイダンス施設での「ふるさと学習」の受け入れ。歴史や文化の理解を深める

図 328　ガイダンス施設での大学等による学術調査・研究の受け入れ

図 329　市民団体や大学と連携した計画対象エリアでの各種調査。今後も継続する

５－９－２　設備

【楢下宿】歴史的建造物の照明

楢下宿では、住民や学生が史跡を構成する歴史的建造物の魅力を活かして多様な活用を展開している。

歴史的建造物を活用する際、屋内は照明が少なく暗いため（図330）、現在は複数の投光器による補助光源を使用している（図331／図332）。しかし、投光器の長時間使用は非常に高温になることから、今後は照度を考慮しつつ、ＬＥＤによる補助光源に変更して、さらなる活用を図る。

図 330　地域に伝わる昔話の発表会（大黒屋）

図 331　歴史的建造物での投光器使用状況（大黒屋）

図 332　歴史的建造物での投光器の設置状況（大黒屋）

図 333　角館武家屋敷の照明設備（秋田県）

【金山越】木橋・木歩道・木製階段

金山越の羽州街道では、11か所に木橋が架けられている。平成26年７月の大雨に伴い史跡23箇所で甚大な被害が生じた際、金山越の木橋のすべてが流出毀損したため（図336）、平成26・27年度に実施した災害復旧工事で木橋の架け替えを行った。

現地にある木橋11箇所のうち、馬頭塔に近い第５木橋（幅員50cm）は河床からの高さが約２ｍあることから（図337）、史跡探訪者の安全性や利便性を考慮し木橋幅を第７木橋同様のサイズに拡幅する。

金山越では２か所に木歩道（幅員50cm）が設けられている（図339～図341）。災害復旧No.11地点の木歩道は山側から流入する水の影響で谷側に傾いているため傾斜を補正する。また、木歩道は朝露や雨に濡れると滑りやすく危険なことから桟木、ロープ等による手すりの設置や注意喚起表示、幅員の拡幅を行う。

七曲り坂に設けられている木製階段は、設置から25年以上が経過し、経年による損壊が複数個所で認められることから計画的に更新する（図346）。

図 334　金山越に設置されている木橋

図 335　史跡探訪者による木橋の利用状況

図 336　平成 26 年７月の大雨で流出・毀損した木橋

図 337　河床からの高さが約２ｍある第５木橋

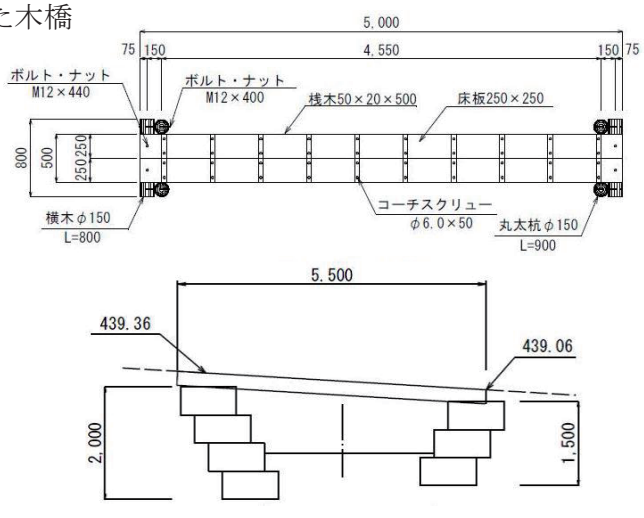
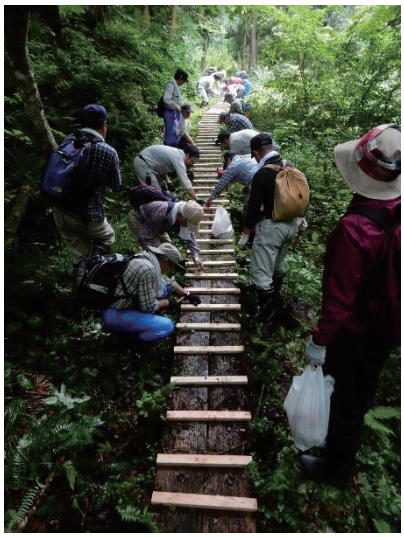


図 338　第５木橋（上：平面図／下：断面図）

図 339　災害復旧 No. 11 地点の木歩道。山側から流入する水の影響を受け谷側に傾いている

図 340　災害復旧 No. 23 地点の木歩道

図 341　木歩道は濡れると滑りやすく危険なことから幅員の拡幅を検討



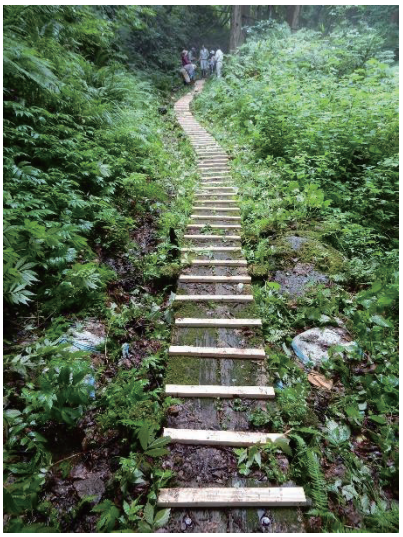


図 342　市民史跡保全活動で木歩道整備（経年劣化した横木の更新）災害復旧 No. 11 地点

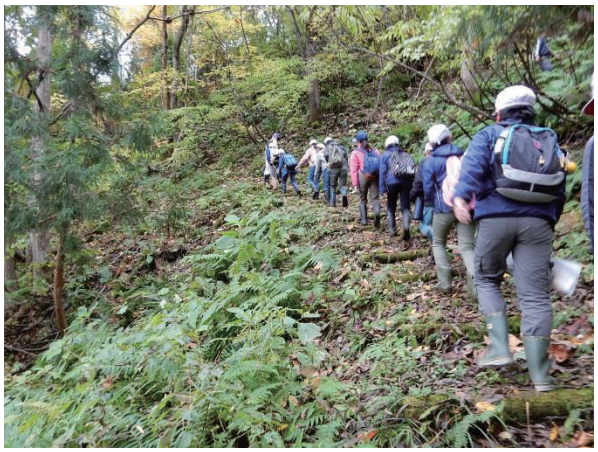


図 343　木製階段の利用状況（七曲り坂）

図 344　木製階段（竣工時）

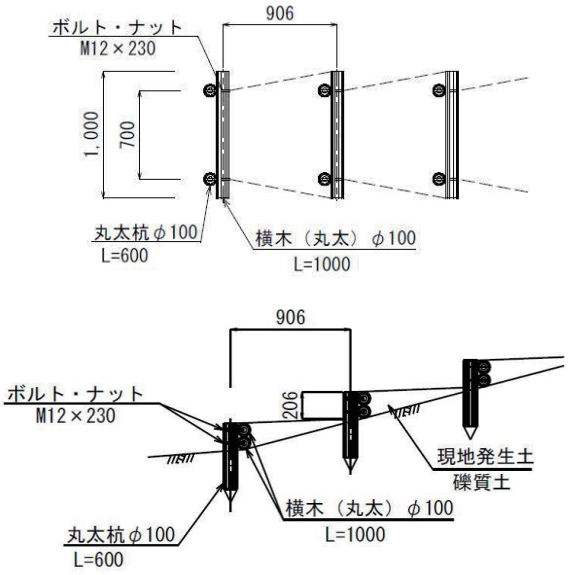


図 345　木製階段（上：平面図／下：断面図）

図 346　経年による劣化（七曲り坂）

図 347　市内小学校による史跡探訪（七曲り坂）